

フジタが目黒にやってきた —作品収集のあゆみ—

目黒区美術館(目黒区民センター隣接) 22.10.08~11.20



「目黒美術館」は、1987年開館に先立つ1981年度より海外への留学や、国際的に活躍した作家、素材や技法の特質をよく示す作品を中心に、日本の近代～現代に至る美術歴史を俯瞰できるコレクションを目指し収集を行ってきた。

最初の収蔵作品は、「藤田嗣治」の《動物群》を皮切りに、数多くの日本人作家の秀作を収集して現在「2400点余」を数えるに至っている。

最近では、美術館活動に応じて収集の傾向も次第に変化し、目黒にゆかりある作家の作品は、美術館を特徴づける主要コレクションとなっている。

本展では、開館前から現在に至るコレクション形成のあゆみを振りかえりながら、作品収集の過程や取得時のエピソード、取得金の仕組みまで、普段見ることできない美術館の舞台裏を紹介している。

< 展覧会の内容 >

第1章 : フジタが目黒にやってきた。 (1981~1986年)

開館前の収集品や当館のコレクションを特徴づける作品中心。

第2章 : 個性的な展覧会と地域へのまなざし。 (1987~1997年)

独自の視点による展覧会と連動した作品収集と目黒ゆかりの作家紹介。

第3章 : 生活芸術と素材・画材へのアプローチ (1998~2007年)

陶芸・染織、デザイン、建築など幅広い展覧会開催や素材画材の紹介。

第4章 : 目黒区美術館の新たなレガシー (2008~2018年)

図版左から、秋岡芳夫《赤い家》、高島野十郎《百合とヴァイオリン》

古茂田守助《踊り子達》、武内鶴之助《冬の小川》

藤田嗣治《動物群》の目黒区美術館のコレクション